

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0191500032		
法人名	有限会社 五十嵐 水産		
事業所名	グループホーム ゆずりは		
所在地	松前町字静浦464 (電話) 0139-44-2065		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年1月9日	評価確定日	平成20年1月22日

【情報提供票より】 (19年 10月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	ブロック造り		
	1階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 12,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	600 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (10月 3 日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1		要介護2	6
要介護3	1	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 82 歳	最低 75 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松前町立病院・田口歯科・樋口歯科・松前記念クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

松前町は桜前線が全道1番に上陸し比較的温暖な気候でも名高く、松前城も有名な町である。グループホームゆずりは城下町を通り過ぎて神社と隣接した所に位置している。運営者は永年にわたり民生委員などの要職に携わるなか、高齢化と過疎化する町の将来を心配し、認知症になっても低額で安心して地域で暮らせることを望み、保育所の空き施設を改装してホームを設立した。年中青々とした新しい葉が芽生え、生き生きとした常緑木のゆずりはのように、利用者が地域に根ざして暮らせるようにと運営者が命名した。管理者と職員は利用者の尊厳と家族の意向を大切に取組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームは開設1年未満で、今回の外部評価が初回であり職員全員で自己評価の作成に取り組んでいる
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で意見を出し合い作成した自己評価は自己満足することなく、常に反省心を忘れずに厳しい目線で作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の議題に自己評価を公表して意見交換を行い、質の向上に努力する姿勢がみられる。今回の外部評価の結果も公表する予定であり、地域に密着したグループホームを目指している。現状を維持しながら、さらなる努力を期待している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	今のところは家族からの意見・苦情はないが、今後運営推進会議に多くの家族の参加を考えている。職員の看護師は利用者の状態の変化がある時を考え不安を一刻でも早く解消するために、最近ホーム近くに転居している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホームは日常の生活を写真集にしており、神社のお祭り・町内特養夏祭りへの参加・小学生のボランティアによる花壇作り・砂場の整備などが写しだされている。また、ご近所の方が収穫した小豆の殻剥き作業をする利用者の姿やホーム周辺を草取りする地域の方々など相互交流が盛んに行われている様子がみられる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事務長の立案で経営観念・基本理念・ケア理念と事業所独自の理念を作成し、分かりやすく明快な内容になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの見やすい場所に提示してあり、管理者と職員はその人に合ったケアを心がけていてミーティングやカンファレンスなどで再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接の神社のお祭り・町内会行事・小学校運動会・特養夏祭りなど地域の行事に積極的に参加している。小学生のボランティアの花壇作り・砂場の整備・地区の方々の周辺の草取り・利用者による依頼された小豆の殻剥き作業など交流は盛んに行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で作成し、運営推進会議の中で公表し意見交換を行い記録に残している。外部評価を実施する意義を十分理解していて、改善しようとする姿勢がみられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在まで運営推進会議は3回開催している。包括支援センター・地区町内会役員・家族の方々と構成されていて、意見交換は活発に行われている。外部評価の結果も議題にする予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は町の要職に携わっており、旧保育所を改装して利用するなど町との連携は密接であり、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	現在までは職員の異動はないが、金銭出納帳には領収書が添付されており利用者の日常生活を写真で様子を写し、1ヶ月に1度家族へ報告している。会報も近々発行予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見・苦情等は来訪時に会話の中から聞く機会を伺うが運営に反映される程の意見がないので今後、多くの家族の方を運営推進会議に参加していただき意見を取り入れたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は現在のところいないが、運営者は職員異動による影響をよく理解していて必要に応じ対処方法を考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設して日の浅いホームであるが職員の外部研修会等には積極的に参加させており、報告書・復命書などに記録している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、地域福祉施設の行事参加、相互訪問などで交流を図り質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して入居できるように初めの段階で家族と一緒に訪問経験・お泊まりを試験的に実施するなど十分納得していただくために時間をかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩であると意識し、常に思いやりを忘れずに接していて後輩として教えていただく態度と感謝を言葉で表現することを心がけ、個々の出来る事と役割分担を見い出すように努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人情報の中で生活歴を把握し出来る事・出来ないことを見極め利用者意向にそって、支援し全職員で共有につとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を介護計画作成前に克明に聞き取り記録し、月1回のモニタリングの中で全職員で検討してプランに活かすように取り組んでいる。記録・捺印もある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しているが利用者の状況の変化に応じて随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の意向により外出・外泊などの要望には柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望に応じて、かかりつけ医院等への通院介助を支援している。3ヶ月ごとの定期検診、協力医の訪問診療なども実施し、家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については入居時に口頭で伝えているが対応は明確でない。	○	管理者は終末期については十分理解しているが、伝達しづらい課題のため、入居時の契約際に書面で提示し指針を説明するなど対応の整備を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録・情報などは所定の場所に保管・管理している。職員の言葉かけや態度はプライバシーを損ねる対応はしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を大切に、買い物・散歩・自宅畑の見回りなど希望を優先に考えて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	運営者は水産業を営んでおり、食卓には新鮮な食材の差し入れがあって、利用者は常においしく、楽しく食事をしている。職員は個々の好みを把握していて、食事の準備・後片付けなど一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自己評価では○印になっているが、職員は利用者の負担感・抵抗感などに配慮していてバイタルチェック表・入浴記録・業務日誌などでみる限りでは支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴で研ぎ師の利用者がおり職員は見守りながら包丁を研いでもらい、裁縫の好きな方にはお手玉作りなどをしてもらって、利用者の得意分野を活かす支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	海と山が近くにあるホームなので海に愛着のある方は海へ。畑作りの好きな方は花植え・家庭菜園など戸外に自由に出掛ける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中 玄関に鍵はかけなく自由に入出入りは可能であるが、防犯のため夜勤者と交代時には施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防組織表を独自に考案し消防署と地区の住民の協力を得て、防火訓練を利用者と全職員が参加して実施している。救命方法・応急手当方法など講演会も開催している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分1日700ml.～1,000ml.を目安に味付けは薄味にして、地元の新鮮な食材を利用し献立を作成している。職員は利用者の食べる量には常に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の居間には神棚があり、お正月の舞玉が飾られソファも色と型が違うが、利用者は好みによって居場所を確保している。大きな窓からの採光も心地良く、明るく家庭的である。現在は車椅子の利用者はいないが、後々のために対応できるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	保育所跡を改装してのホームなので居室の間取りには違いがあるが、私物の持込は制限なく使い慣れた物を家族と相談の上、持ち込んでいる。利用者はそれぞれに居心地良い居室に工夫している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。